



— 展示解説員が博物館の見どころを紹介します —

みやはく 🔍

<http://www.miyazaki-archive.jp/museum/>

※わくわく通信のバックナンバーはHPで見ることが出来ます

ウミネコ

本館1階自然史展示室の鳥類コーナーでは、数多くの鳥の剥製(はくせい)を展示しています。今回、紹介するのは、その中の「冬鳥(ふゆどり)」のコーナーに展示されている「ウミネコ」です。

「ウミネコ」は、漢字で「海猫」と書きますが、哺乳類(ほにゅうるい)の「ネコ」ではなく、カモメの仲間です。「ミャオー」とネコに似た声で鳴くことからこの名前がついています。大きさはアヒルより小さく、嘴(くちばし)は黄色く、先端部が赤色と黒色をしています。

県内北部の門川町などの海岸や河口にやってきて、魚類や昆虫、甲殻(こうかく)類を食べています。

本館では他の鳥の紹介や鳴き声も聞くことができますので、ぜひ聞いてみてください。



撮影：解説員 姫野美穂



「日何の木地師(きじし)」



ロクロを使ってボンやワンなどを製作し、諸国を転住した人々を「木地師(きじし)」あるいは「木地屋(きじや)」と呼びました。惟喬親王(これたかしんのう)を職祖とし、小椋姓(おぐらせい)を名のる人々は良材を求めて自由に往来できる特権を有し、奥山で集落生活を営んだと言われていています。

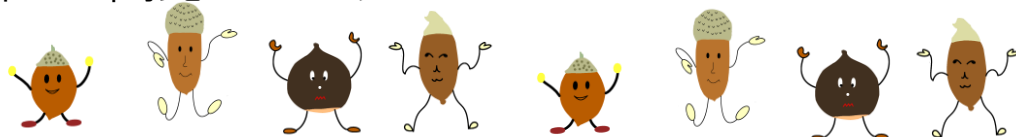
民俗展示室にはこれら木地師が製作したとされるクリバチやメシビツ、ボン、ワンなどを展示しています。内側をベンガラで赤く、外部は黒く漆が塗ってあり独特で素朴な風合いが目を引きます。

山々を渡り歩き漂泊生活をしていた木地師集団ですので不明な点も多いですが、本県でも旧高千穂郷など、県中以北の山中に数多くの木地師が居住していたことが記録で分かっています。

山の生活に従事した木地師集団から宮崎の山村社会の一側面が垣間見られます。



ヒラ (諸塚村) メシビツ (日之影町)



博物館クイズだよ！！

民俗展示室の作小屋の中には、箱膳(はこぜん)という道具があるよ。箱膳はどういう役割をしていたでしょうか？

- ①椅子 (いす)
- ②テーブル
- ③踏み台 (ふみだい)

